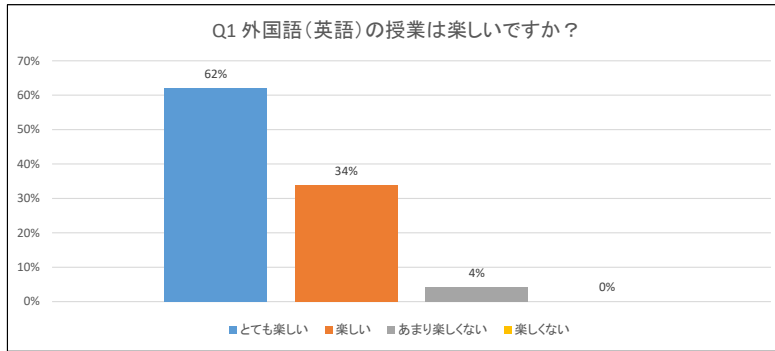


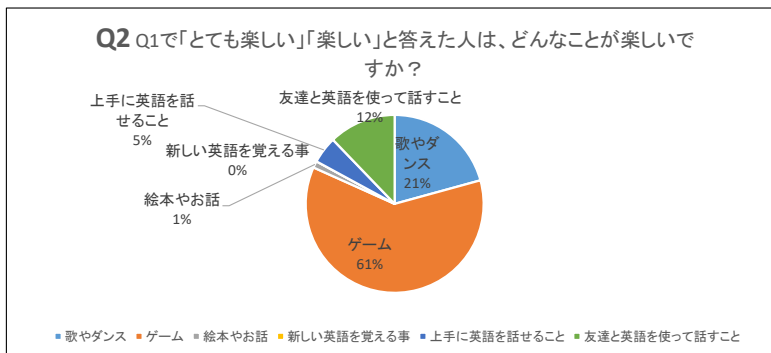
令和5年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(小野部田小)



【Q1について】

・外国語(英語)の授業が「とても楽しい」「楽しい」と答えた児童を合わせると96%となっており、多くの児童が外国語(英語)の授業に対して好意的に受け止めていることがわかる。

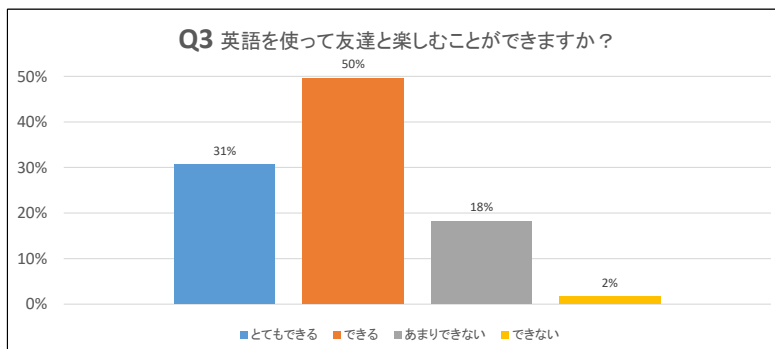
・一方であまり楽しくないと答えた児童が少数とはいえ4%ほどいる。英語に対する苦手意識や抵抗感を軽減できるような授業改善や個に応じた支援を講じていく必要がある。



【Q2について】

・外国語(英語)の授業において「歌やダンス」「ゲーム」が楽しいと答えた児童は80%以上で、身体表現やゲーム的な活動をより多く好んでいることから、英語に対する苦手意識や抵抗感を軽減するための手法として効果があるものと考えられる。

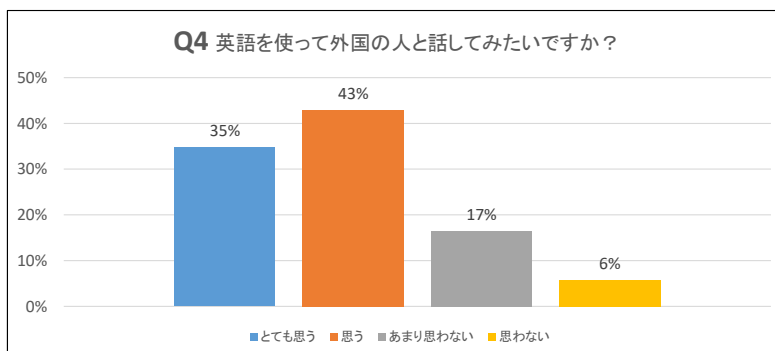
・「上手に英語を話せること」や「友達と英語を使って話すこと」については17%にとどまっている。相手とのコミュニケーションや言語活動そのものについて楽しさを味わえるような授業改善に力を入れていきたい。



【Q3について】

・英語を使って友達と楽しむことができている児童は81%で積極的に友達と関わっていることがうかがえる。

・一方で、できていない(あまりできていない)と感じている児童の多くは高学年で、外国語の授業中だけでなく、日頃の学校生活全般でクラスルームイングリッシュを効果的に取り入れ、積極的に英会話に取り組めるような風土を構築していきたい。



【Q4について】

・英語を使って外国の人と話してみたいと考えている児童は78%で、多くの児童が意欲的に外国の人とコミュニケーションを取りたいと思っている。今後、外国の人と関わる機会は増えていくので、さらに数値が上がるような取組を進めていきたい。

・23%の児童は「あまり思わない」「思わない」と回答している。ここでも高学年に否定的な思いをもっている児童が多い傾向にある。ALTとの会話活動を通して、より具体的なシチュエーションを想定した対話活動を工夫し、自信を付けさせていきたい。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

・保護者や学校運営協議会委員の方からは、多くの子供たちが楽しそうに外国語(英語)の授業に取り組む姿を見ることができ、このまま外国の人とも自信をもって関わってほしいという意見や感想をいただいた。
・学校関係者の多くの方は、小学校時代は英語を話したり、使ったりする機会があまりなく、自然な形で英語を使ったり、上手に発音する姿に肯定的な意見を多くいただいた。

【考察・今後の展望等】

・全体的に外国語(英語)に好意をもち、楽しく学習することができている。今後も児童主体の授業展開を工夫し、意欲的に外国語(英語)に慣れ親しめるような授業を展開していきたい。
・指導者自身が外国語(英語)を楽しんでいることができるように主体的に授業づくりに取り組んでいきたい。さらに、ALTとの連携を深め、授業の中で効果的に活用していくよう努めていきたい。